

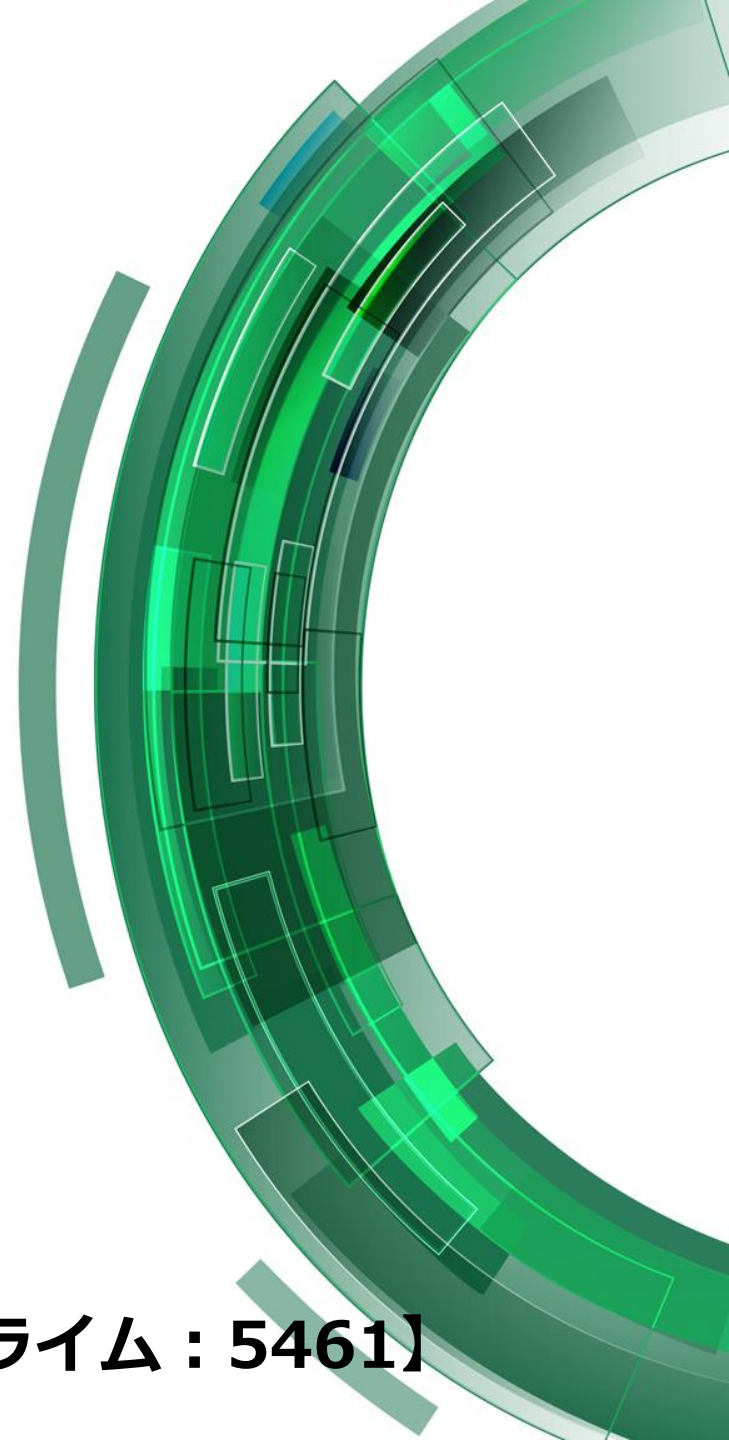
2024年3月期 第2四半期
決算説明会

2023年11月2日（木）



あついで未来を創ります

中部鋼板株式会社【東証プライム：5461】



2024年3月期 第2四半期決算実績	2
2024年3月期 通期業績見通し	14
トピックス	19

【本資料お取扱上のご注意】

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。

また本資料に含まれる将来の計画値、予測値等は説明会時点の入手できる情報に基づいて判断したものであり、不確定要素を含んでおります。

従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願いいたします。また本資料を利用した結果として生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

24年3月期第2四半期実績

第2四半期業績（連結）

減収要因

販売価格は高水準を維持するも、販売数量が減少し減収となる。

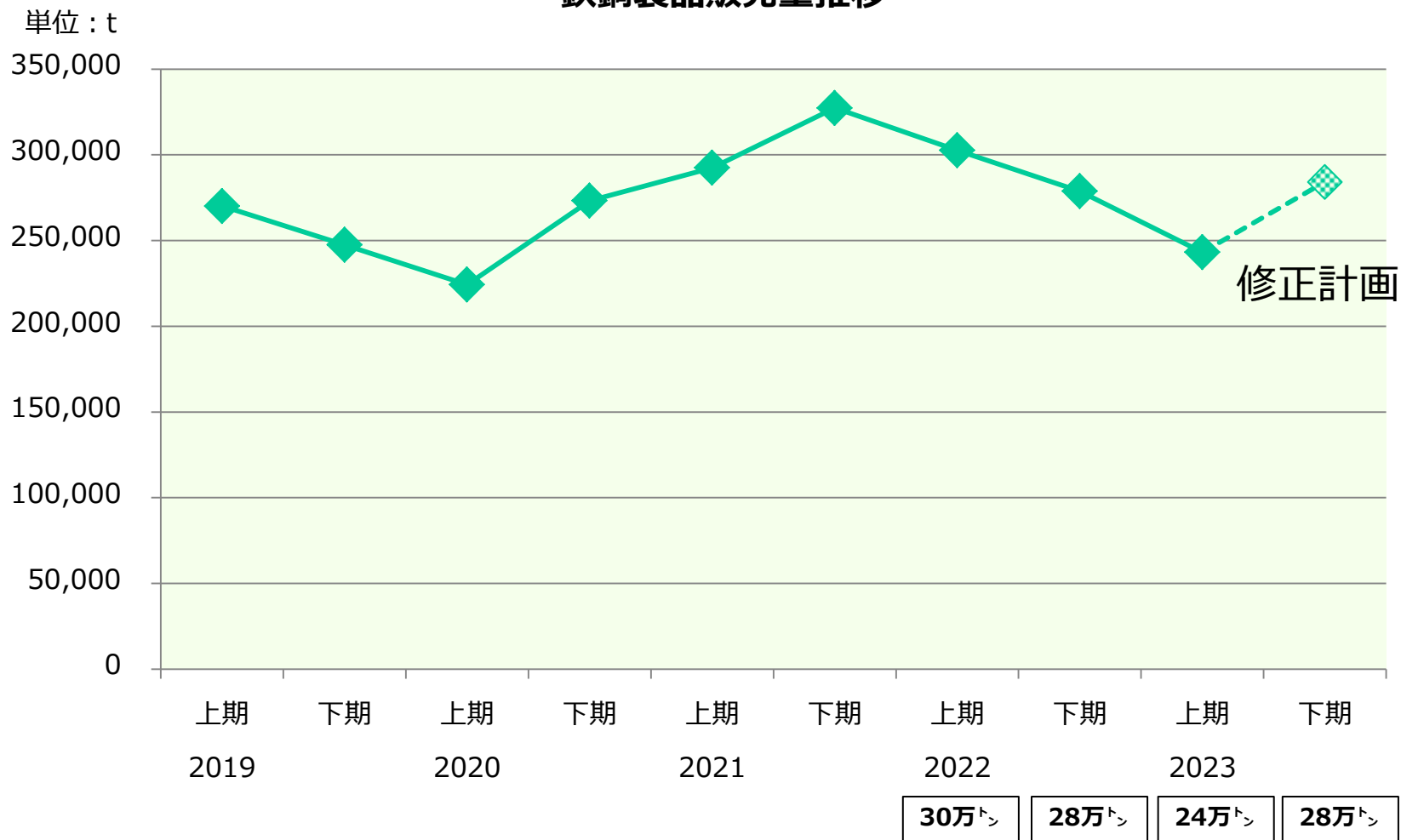
減益要因

スクラップ価格は下落したものの、エネルギー価格の上昇及び販売数量の減少により減益となる。

（単位：百万円）

	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	対前期	
			増減額	増減率
売上高	39,297	32,709	△6,588	△16.8%
営業利益	5,578	4,425	△1,153	△20.7%
経常利益	5,630	4,363	△1,266	△22.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,881	3,044	△837	△21.6%
1株当たり 四半期純利益 (円)	140.54	110.11	△30.43	△21.7%

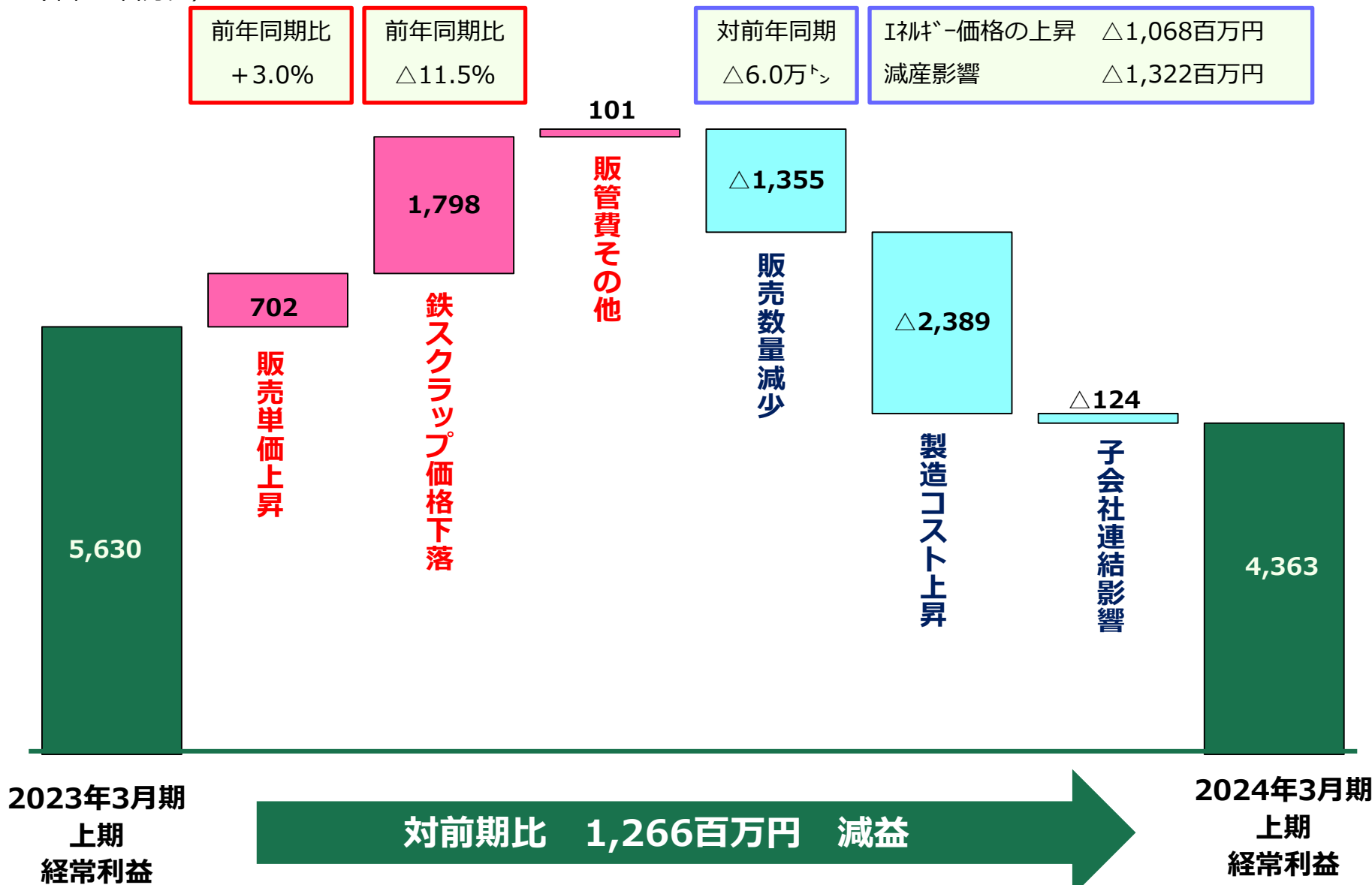
鉄鋼製品販売量推移



* 当社鉄鋼製品販売数量（外販スラブ含）

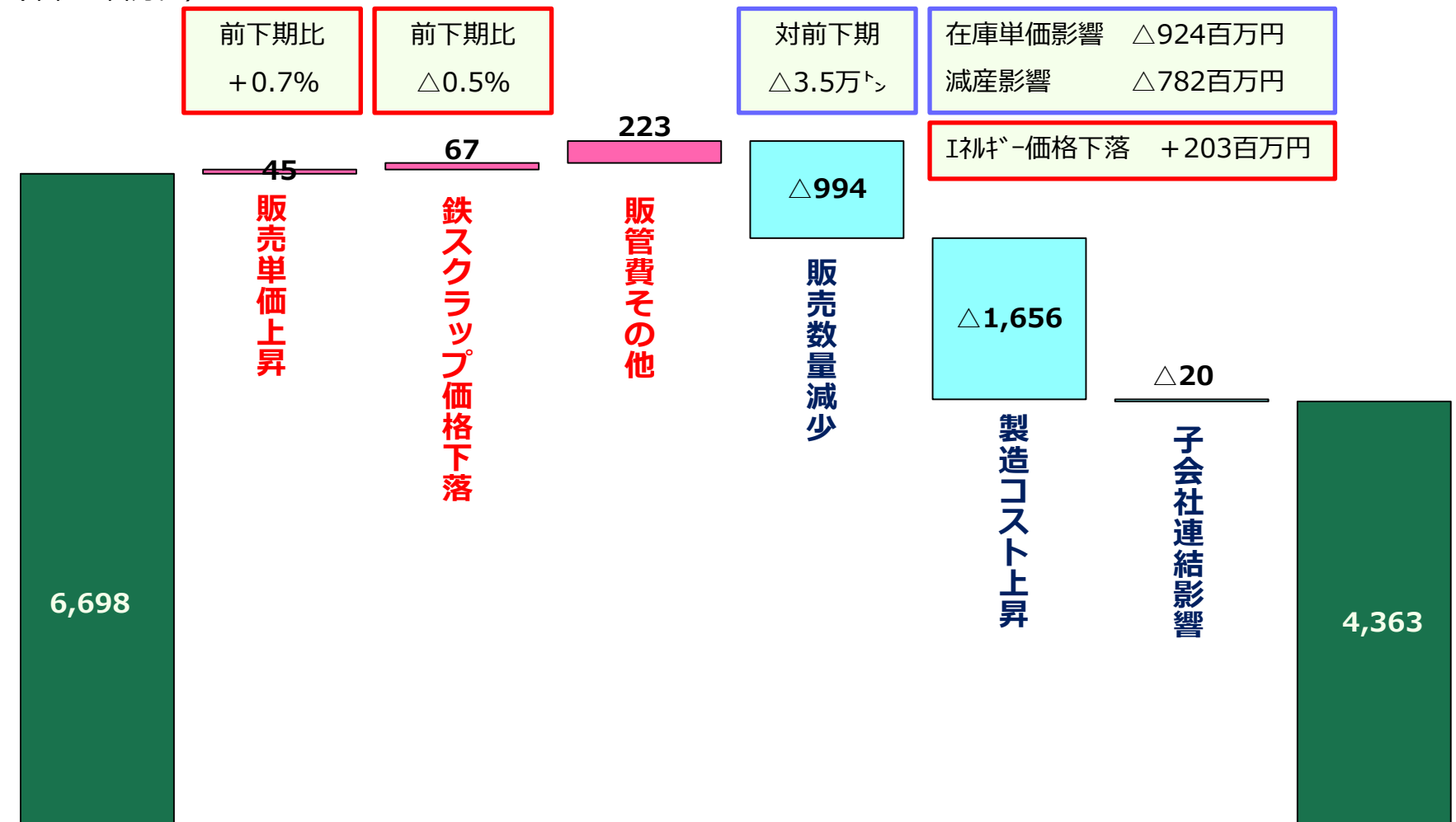
上期経常利益対前年同期比増減分析（連結）

(単位：百万円)



上期經常利益対前年下期比増減分析（連結）

(単位：百万円)



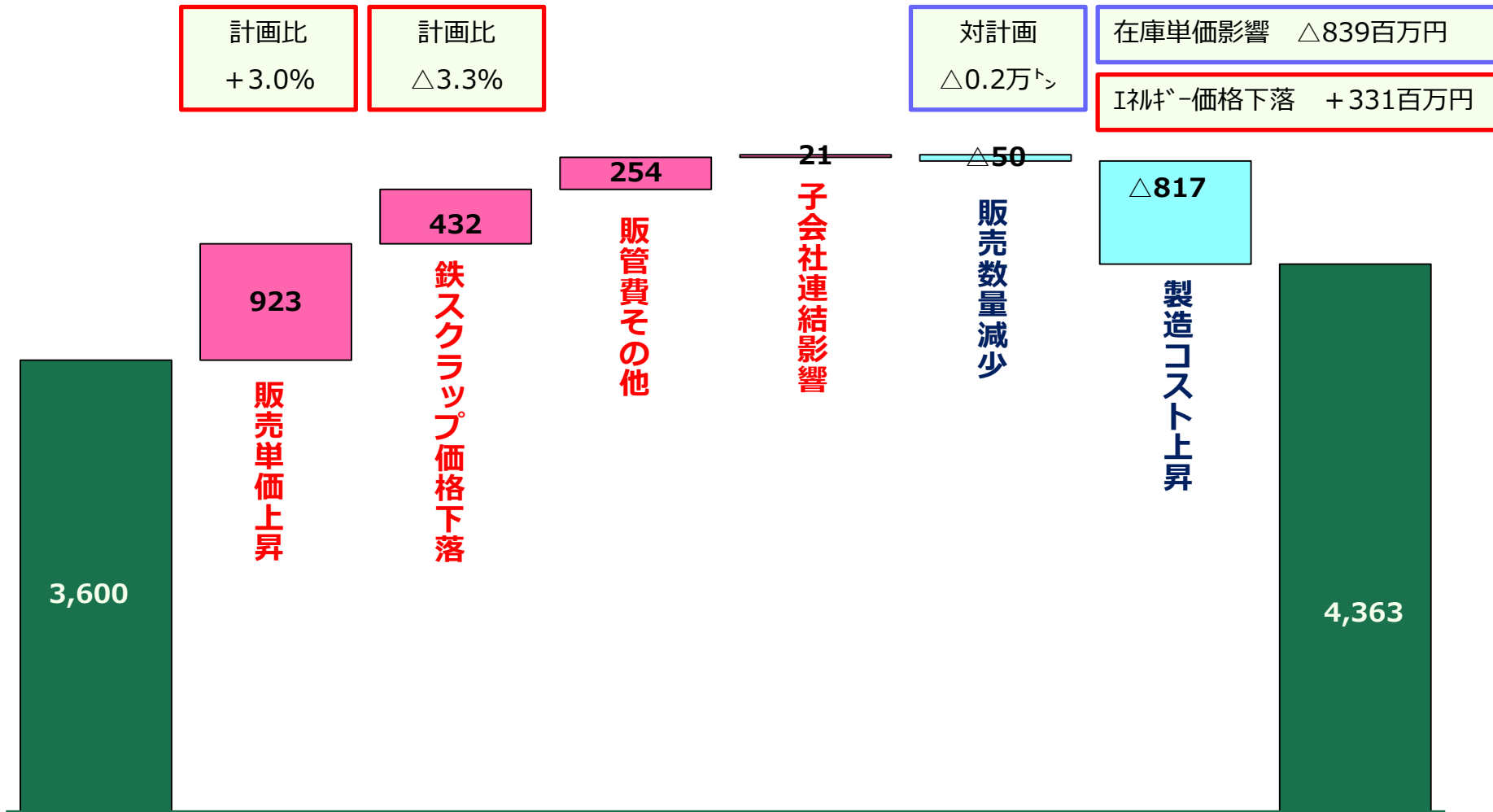
2023年3月期
下期
經常利益

対前年下期比 2,334百万円 減益

2024年3月期
上期
經常利益

上期經常利益対計画比増減分析（連結）

(単位：百万円)



2024年3月期
上期計画
經常利益

対計画比 763百万円 増益

2024年3月期
上期実績
經常利益

電炉業界における当社の位置づけ

当社の電炉業界での位置づけ

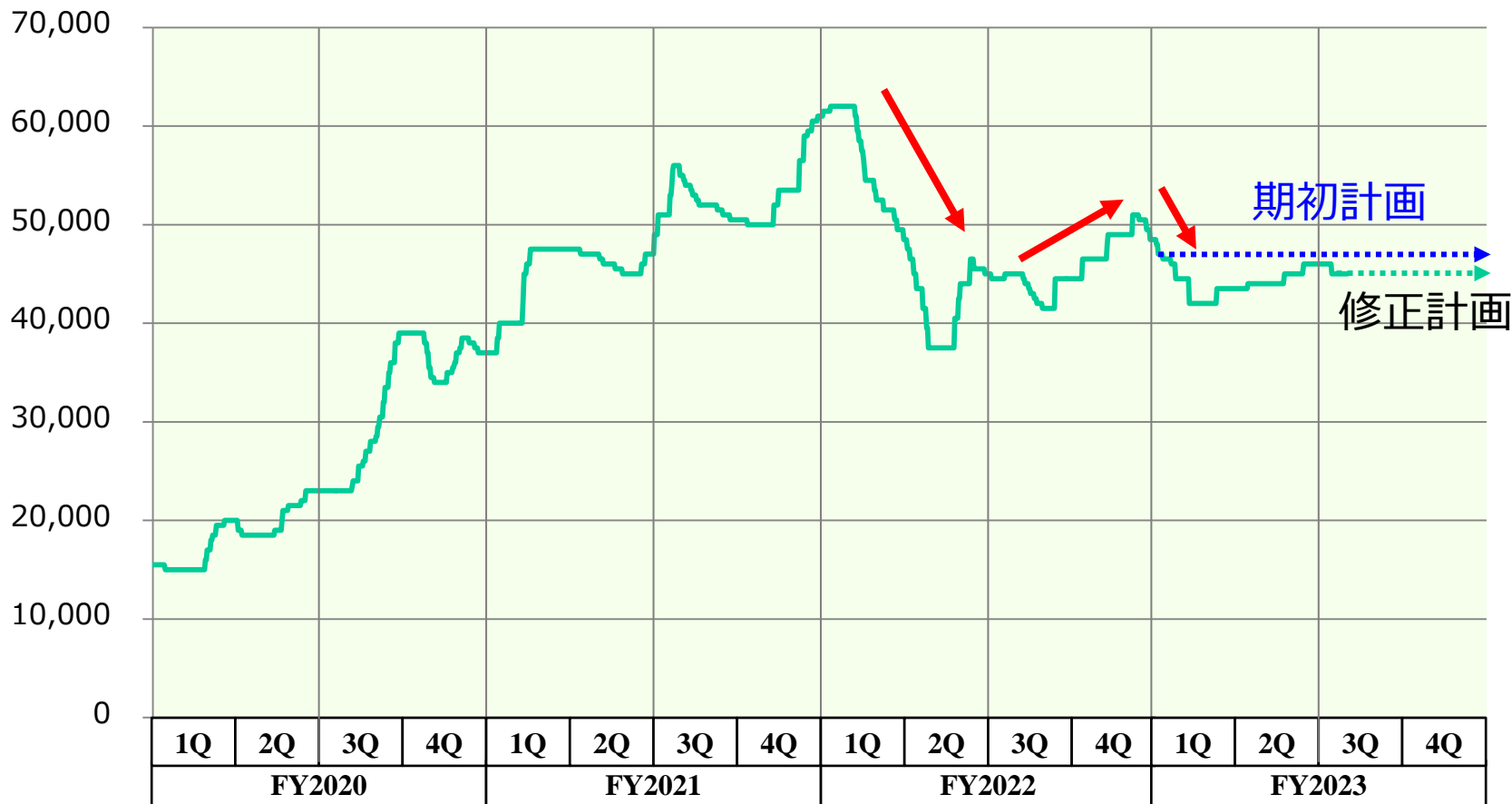
表. 電炉各社の売上高経常利益率

売上高の順位	社名	主要鋼種	売上高経常利益率					
			23年3月期		24年3月期第1四半期		24年3月期第2四半期	
			利益率	順位	利益率	順位	利益率	順位
1	A社	棒鋼 形鋼 薄板 厚板	10.9%	3	12.6%	4		
2	B社	棒鋼 形鋼	4.1%	10	6.4%	9		
3	C社	棒鋼 形鋼	2.4%	12	2.9%	10		
4	D社	棒鋼 形鋼	6.7%	5	9.4%	5		
5	E社	棒鋼 薄板 厚板	7.1%	4	8.1%	7		
6	F社	形鋼	50.2%	1	59.7%	1		
7	G社	棒鋼 形鋼	6.5%	6	—	—		
8	H社	棒鋼 形鋼	5.4%	8	9.4%	5		
9	I社	棒鋼	6.2%	7	13.8%	3		
10	中部鋼板	厚板	16.2%	2	18.2%	2	13.3%	
11	J社	棒鋼	4.7%	9	6.9%	8		
12	K社	棒鋼 形鋼	3.6%	11	1.9%	11		

- ・当社の24年3月期第2四半期は前期を下回るも2桁の売上高経常利益率を確保。
- ・厚板を主要製品にする会社は利益率が高めの傾向にある。

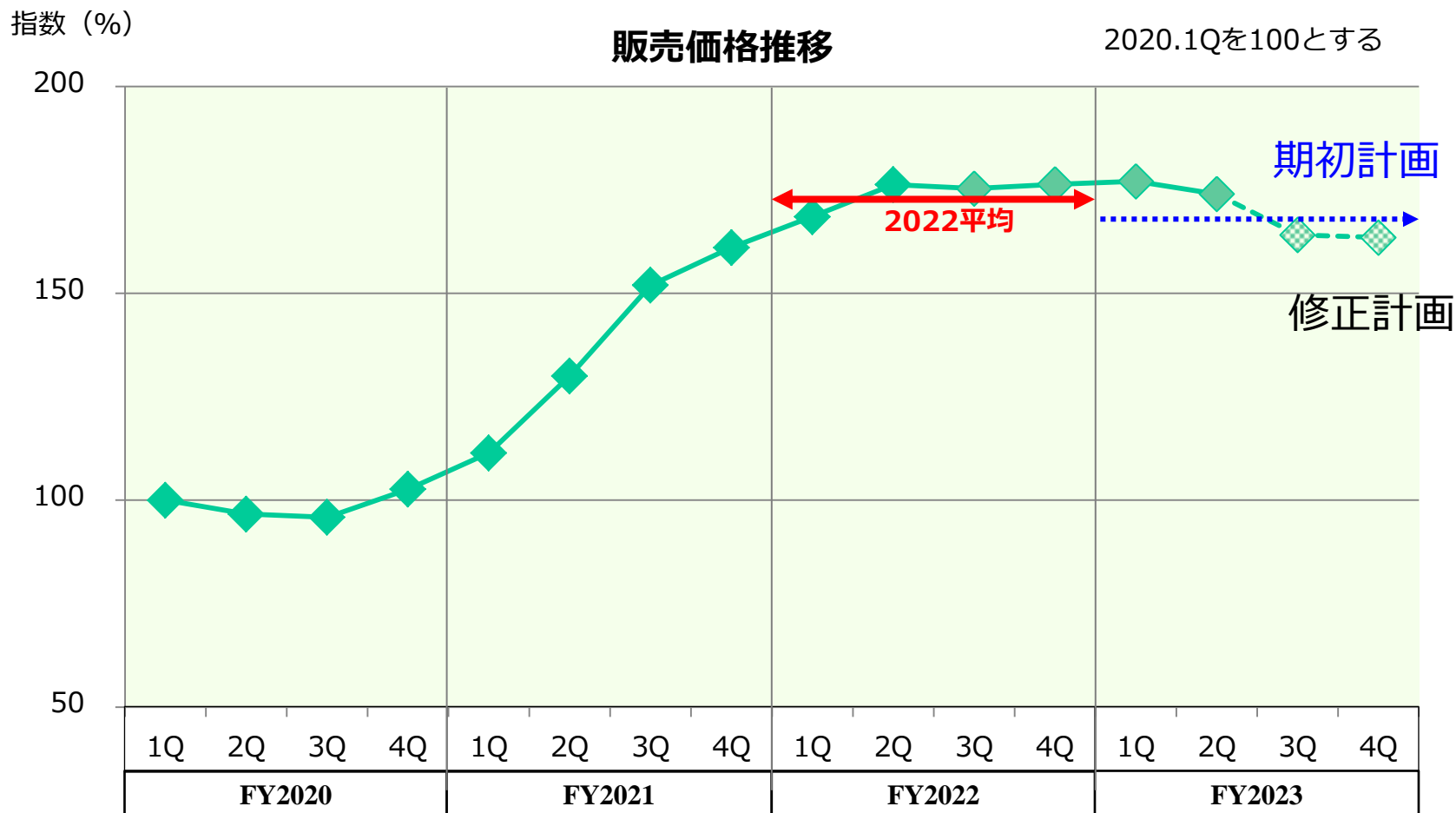
H 2 建値推移

単位：円/t

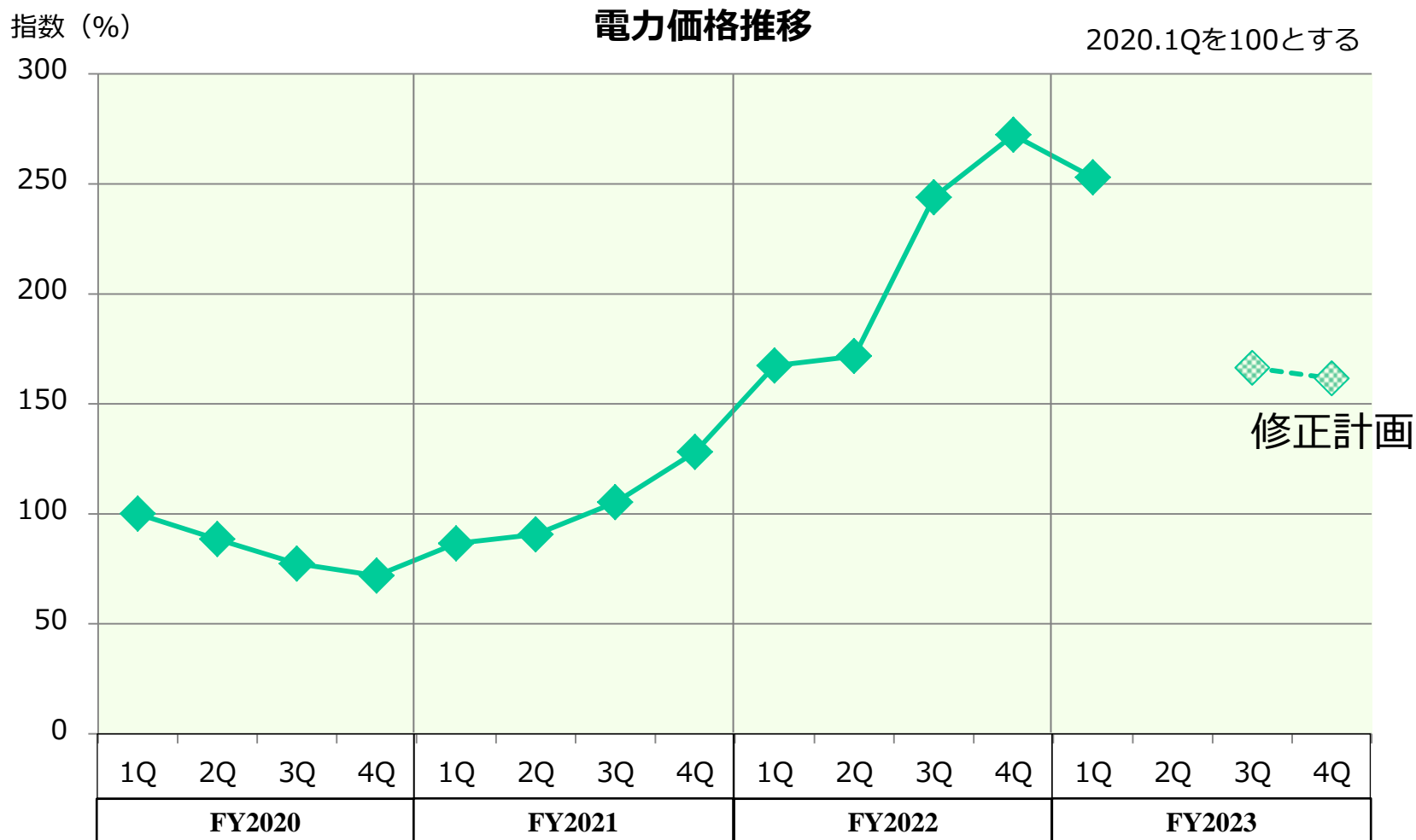


* 当社購入H 2 建値

販売価格の動向



* 当社鉄鋼製品販売価格



* 当社電力購入価格

セグメント別実績

(単位：百万円)

	2023年3月期 第2四半期		2024年3月期 第2四半期		増減	
	外部顧客に対する 売上高	営業利益	外部顧客に対する 売上高	営業利益	外部顧客に対する 売上高	営業利益
鉄鋼関連事業	37,758	5,319	31,304	4,244	△6,454	△1,074
その他	1,539	259	1,405	181	△133	△79
連結合計	39,297	5,578	32,709	4,425	△6,588	△1,153

財務状況（連結）

（単位：百万円）

		2023/3末	2023/9末	増減
資産の部	現預金	10,906	9,568	△1,337
	売上債権	21,562	24,614	+3,052
	有価証券	14,597	12,093	△2,504
	棚卸資産	13,305	8,975	△4,330
	有形固定資産	19,028	20,507	+1,479
	その他	8,695	9,923	+1,228
	資産合計	88,095	85,683	△2,412
負債の部	仕入債務	7,340	4,429	△2,910
	固定負債	1,047	1,060	+12
	その他	5,987	5,367	△619
	負債合計	14,375	10,858	△3,517
純資産の部	株主資本	71,753	72,485	+731
	その他	1,966	2,340	+373
	純資産合計	73,720	74,825	+1,105
負債純資産合計	88,095	85,683	△2,412	

2024年3月期 通期業績見通し

'24年3月期 連結業績見通し

減収要因

工事による長期休止対応による販売数量の減少、及び 販売価格の下落により、前期を下回る見通し。

減益要因

メタルスプレッドは高水準を維持し、エネルギー価格が下落するも、販売数量の減少により、前期比で減益となる見通し。

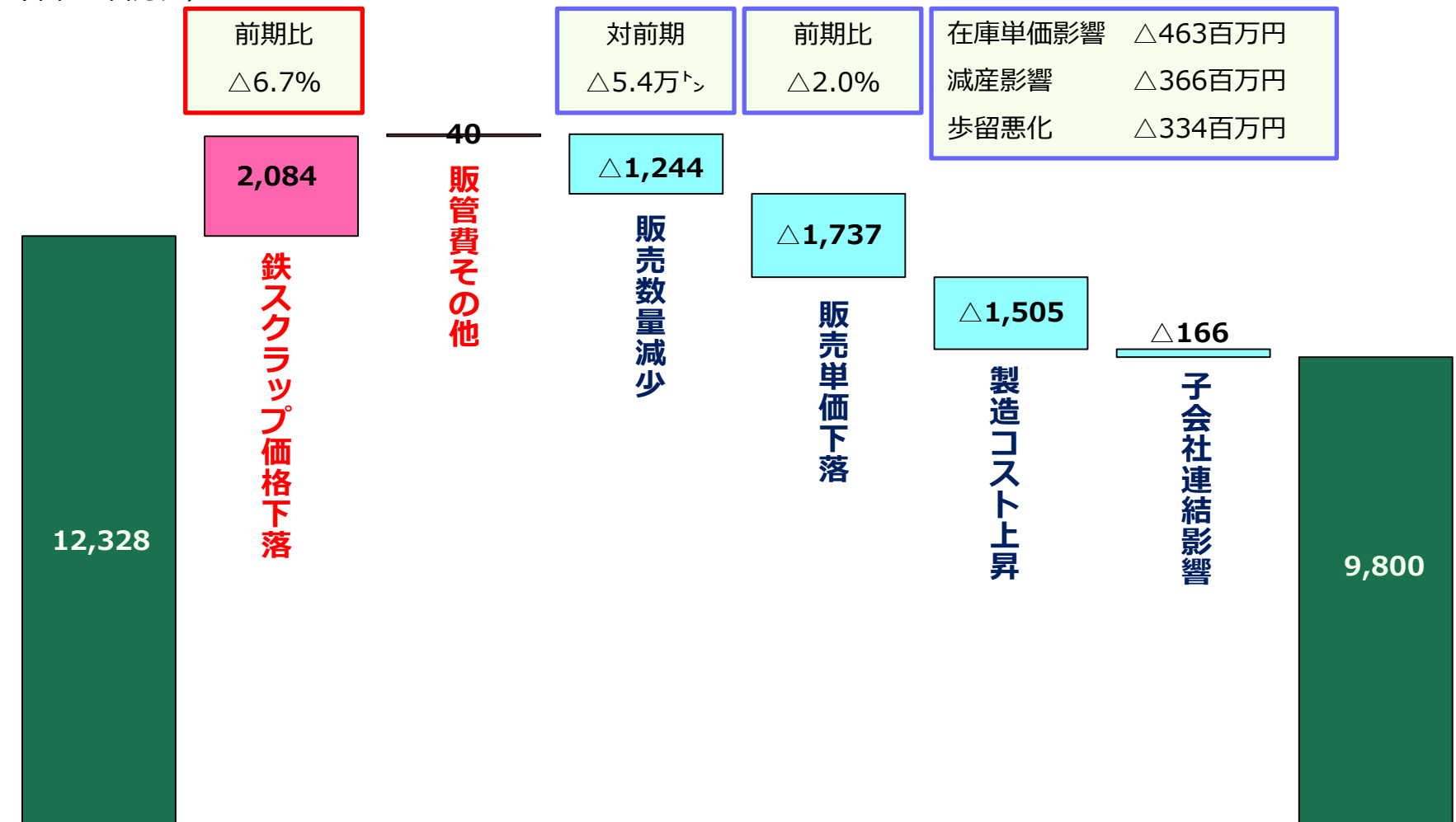
(単位：百万円)

	2023年3月期	2024年3月期			対前期	
		期首計画	修正計画	増減	増減額	増減率
売上高	76,320	70,600	67,600	△3,000	△8,720	△11.4%
営業利益	12,261	10,100	9,900	△200	△2,361	△19.3%
経常利益	12,328	9,600	9,800	+200	△2,528	△20.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	8,577	6,500	6,700	+200	△1,877	△21.9%
1株当たり 当期純利益 (円)	310.53	235.11	242.32	+7.21	△68.21	△22.0%
年間配当金(円)	* 104	83	86	+3	—	—

* 東証上場記念配当10円含む

通期経常利益見通し対前期比増減分析 (連結)

(単位：百万円)



2023年3月期
経常利益

対前期比 2,528百万円 減益

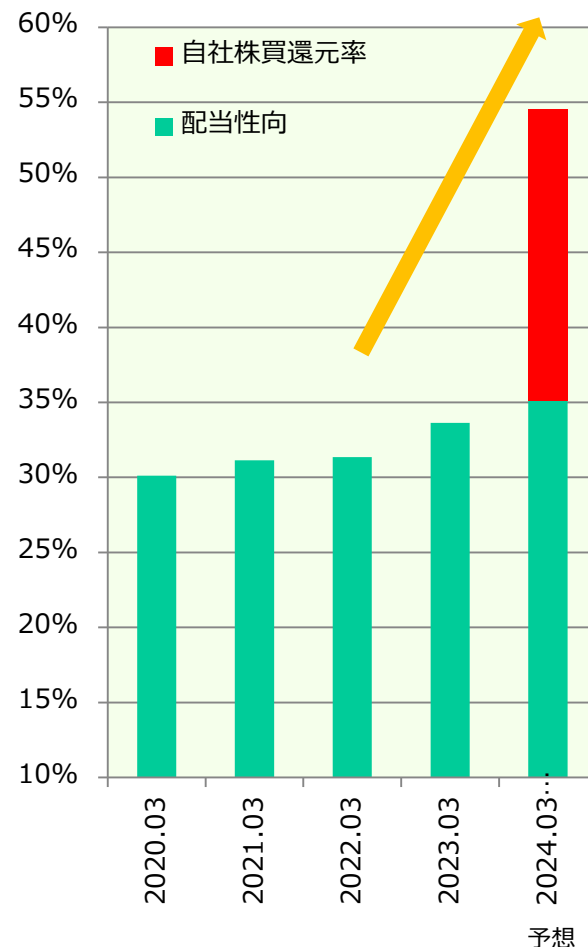
2024年3月期
経常利益

自社株買いの実施により、株主還元を強化

【今次開示のポイント】

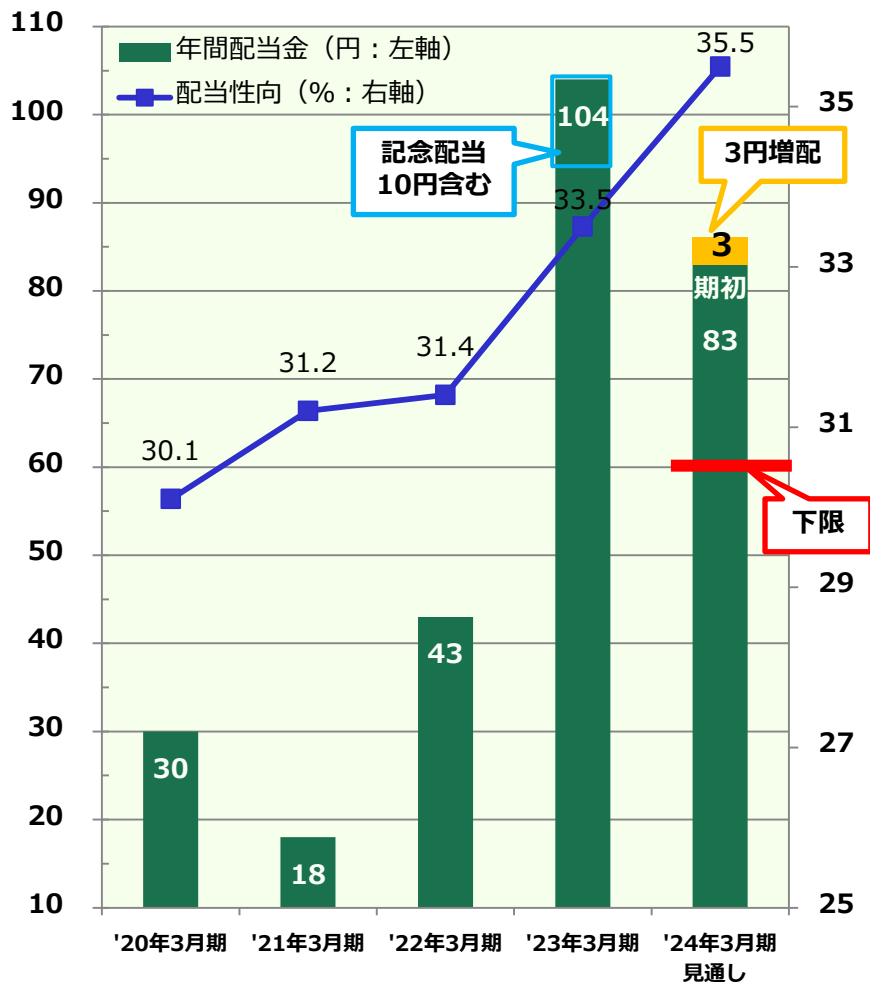
■ 実施額	13億円
■ 実施期間	2023/11/2～2024/4/30

- 株主還元の強化と資本効率の向上が目的
- 今年度の総還元性向は54%程度を見込む
- 今後については次期中期計画の策定の中で方向感を改めて示していく方針

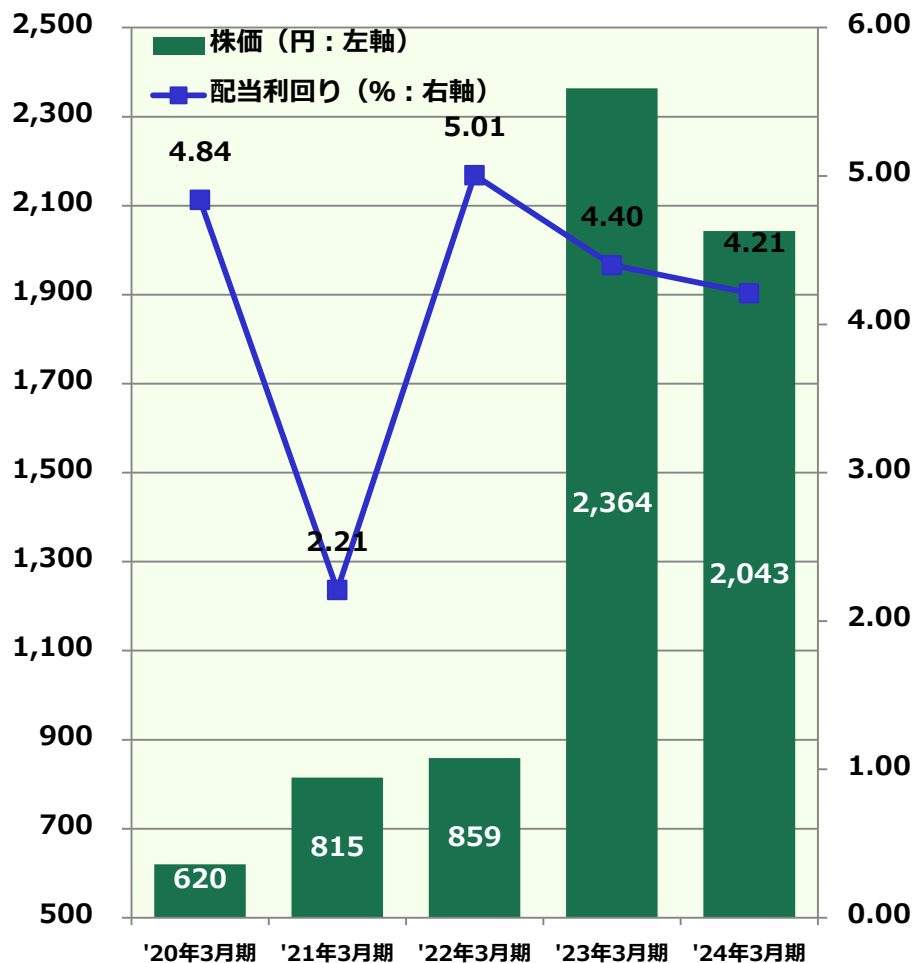


'24年3月期 配当予想

配当と配当性向



株価と配当利回り



※24年3月期より配当方針見直し

※株価は3月末基準

'23年10月末基準

トピックス

'21中期経営計画

2021

2022

2023

中山製鋼所との
業務提携

東証プライム
上場

現在



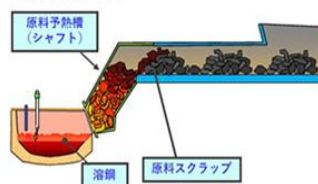
'24中期経営計画

2024

2025

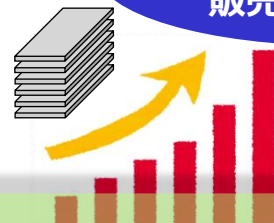
2026

ECOARC-FIT™



新電気炉稼働

・厚板製造・販売量の拡大
販売量 80万t



・脱炭素の推進



■ 来期より新しい中期経営計画（3か年）がスタート

➢ 東証プライム上場を受け、新電気炉稼働効果を製造・販売面、脱炭素面双方で最大限活用したものを想定

■ 詳細については来年3月頃に改めてご説明予定、今回は中計を展望した取組状況につきご報告

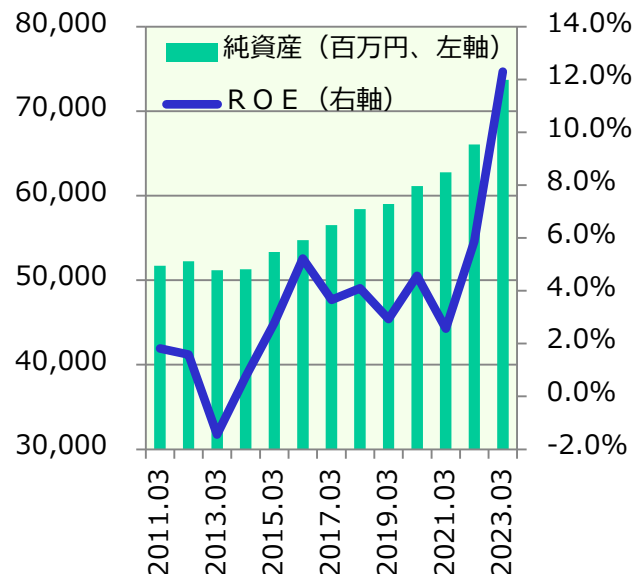
キャッシュを有効活用し、更なる成長投資と株主還元を実施

東証「資本コストや株価を意識した経営の実現」
を上場企業に要請（2023/3）

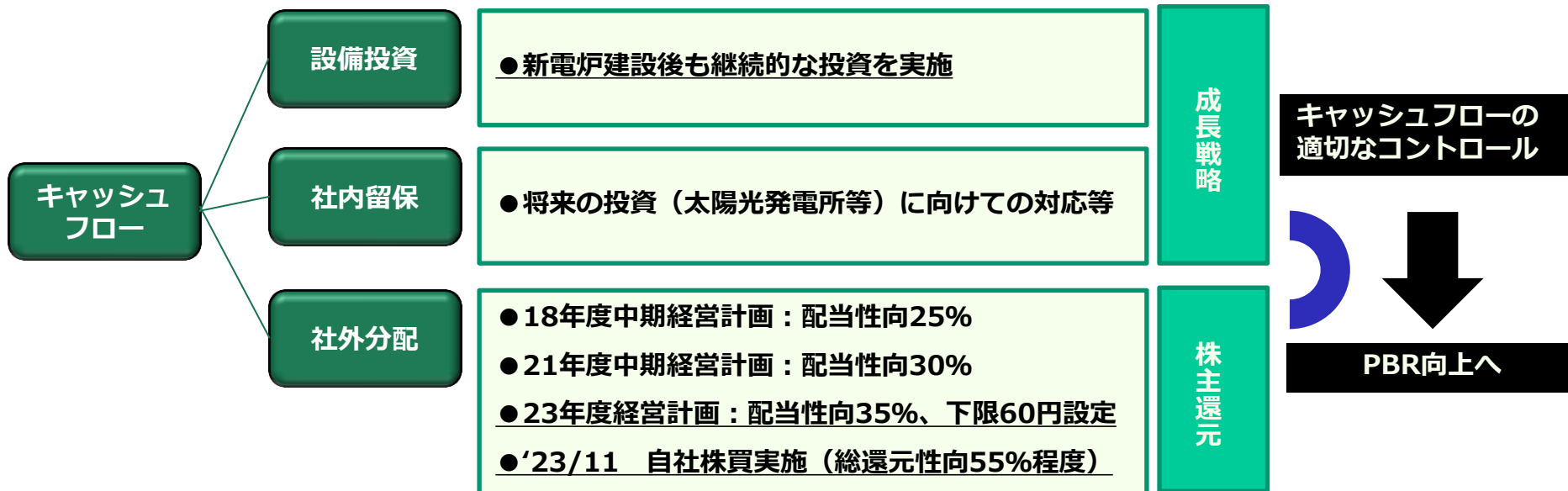


■ 当社は以下の課題につき取り組むことを表明
（2023/5）

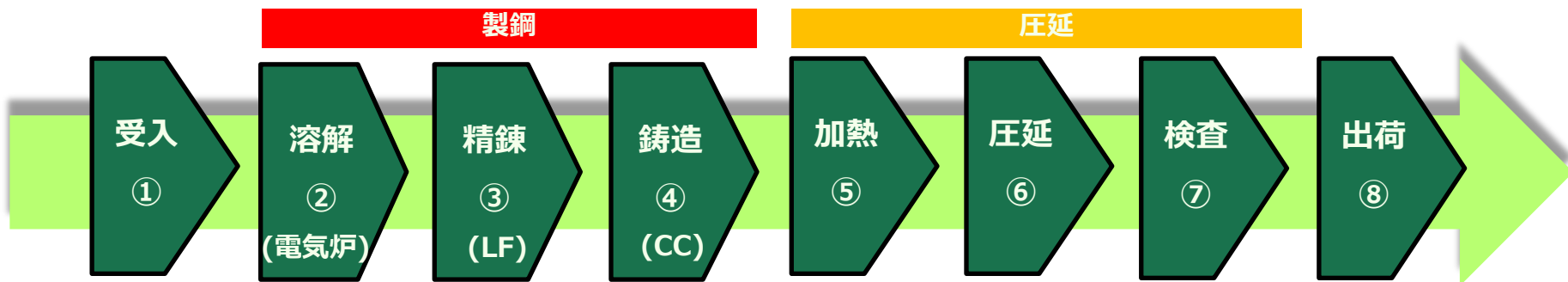
- ROE 8%以上
- PBR1倍以上



今後も高水準のROEを展望



新電気炉の生産性向上を最大限発揮させるべく更に投資を拡大



'21~'23

新電気炉+300tクレーン80億円

※予算は申請ベース、現時点での概算、中期計画策定時に改めてご説明予定

'24~'26

- ①スクラップヤード拡張 30億円
- ②③④製鋼4直化
- ④CC能力アップ30億円
- ④⑤製鋼圧延直結化10億円
- ⑦圧延下工程合理化 30億円
- ⑧製品ヤード拡張 20億円

2024~26投資項目	投資規模	(うち'24)	予算申請年度			目的	効果
			24	25	26		
スクラップヤード拡張	30億円	30億円	○			生産量拡大	在庫量確保による生産機会の確保
CC能力アップ	30億円	10億円	○	○	○		生産性向上による生産量拡大 (CC) 180t/hr
4直3交替(製鋼)	-		○				2交替→3交替 による稼働時間の拡大
製品ヤード拡張	20億円		検討中			出荷能力向上	置場拡大による回転率の向上
製鋼-圧延直結化	10億円	10億円	○			脱炭素, コスト低減	加熱炉装入温度向上によるLNG使用量削減
圧延下工程合理化	30億円	12億円	○	○	○	コスト低減	自動化による省人化
総額	120億円	62億円					

①スクラップヤード拡張（'24中期経営計画）

*○番号は22頁の工程番号

目的：在庫量確保による生産機会の確保

投資金額：30億円



写真 スクラップヤード

- 既設屋内ヤードクレーン増設
荷受作業の効率化
目標：トラック滞留時間2時間以内
- 屋外ヤード拡張及び建屋化
貯蔵量の拡大（1万t⇒3万t）
屋内化による騒音発生の抑制

④ CC※生産能力アップ（'24中期経営計画）

*○番号は22頁の工程番号

目的：冷却能力向上による生産能力アップ

投資金額：30億円

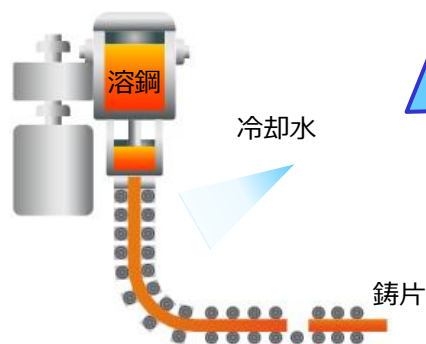
※ 溶鋼を冷やして固める工程（ casting工程）

鑄造速度向上
(短時間で固める)

より多くの
冷却水が必要

- ・ 送水・水処理能力の向上
- ・ 貯水ピット拡張

CC 設備
(溶鋼の冷却)



冷却水を回収

再利用

供給能力アップ

送水ポンプ

冷却設備

水処理・貯水ピット

水処理・貯水設備に送り
冷却などをして再利用

■ 冷却水供給能力アップ

- ・ 貯水ピット拡張
- ・ 送水ポンプ能力増強
- ・ 水処理能力 (冷却) 向上

➤ 冷却水供給能力 20%UP

⑦ 圧延下工程の合理化（'24中期経営計画）

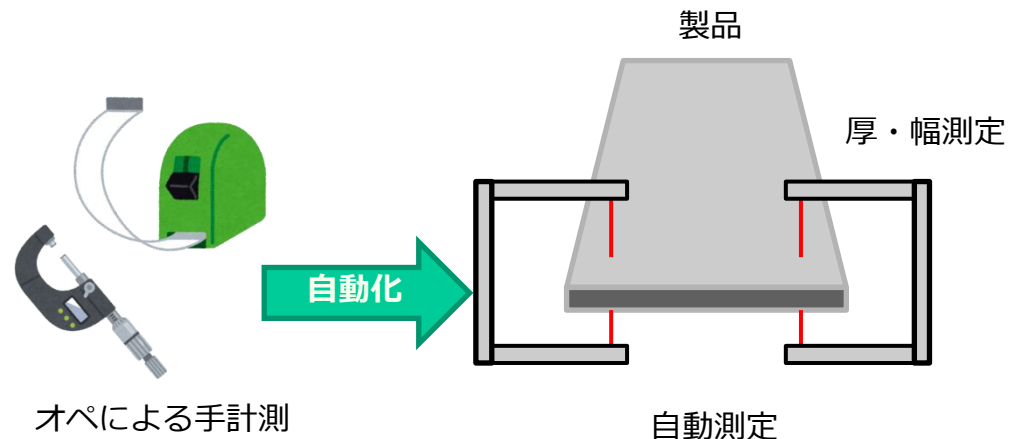
*○番号は22頁の工程番号

目的：省人化

投資金額：30億円

■ 検査の自動化

○厚・幅・平坦度測定 of 自動化



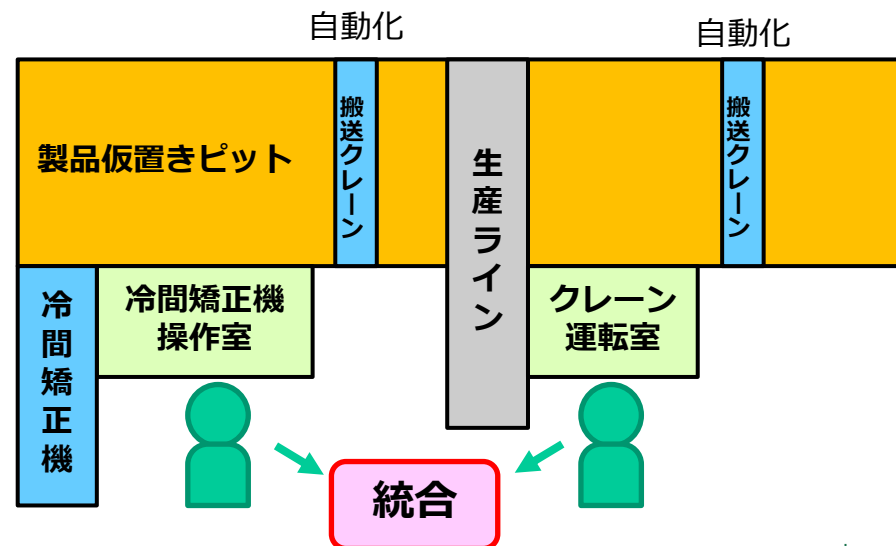
■ 製品管理工程

○製品搬送クレーンの自動化

○クレーン操作室から冷間矯正機の遠隔操作化



冷間矯正機



②～④取鍋搬送用（300トン）クレーン完工

*○番号は22頁の工程番号

目的：老朽更新及び作業改善

投資金額：14億円

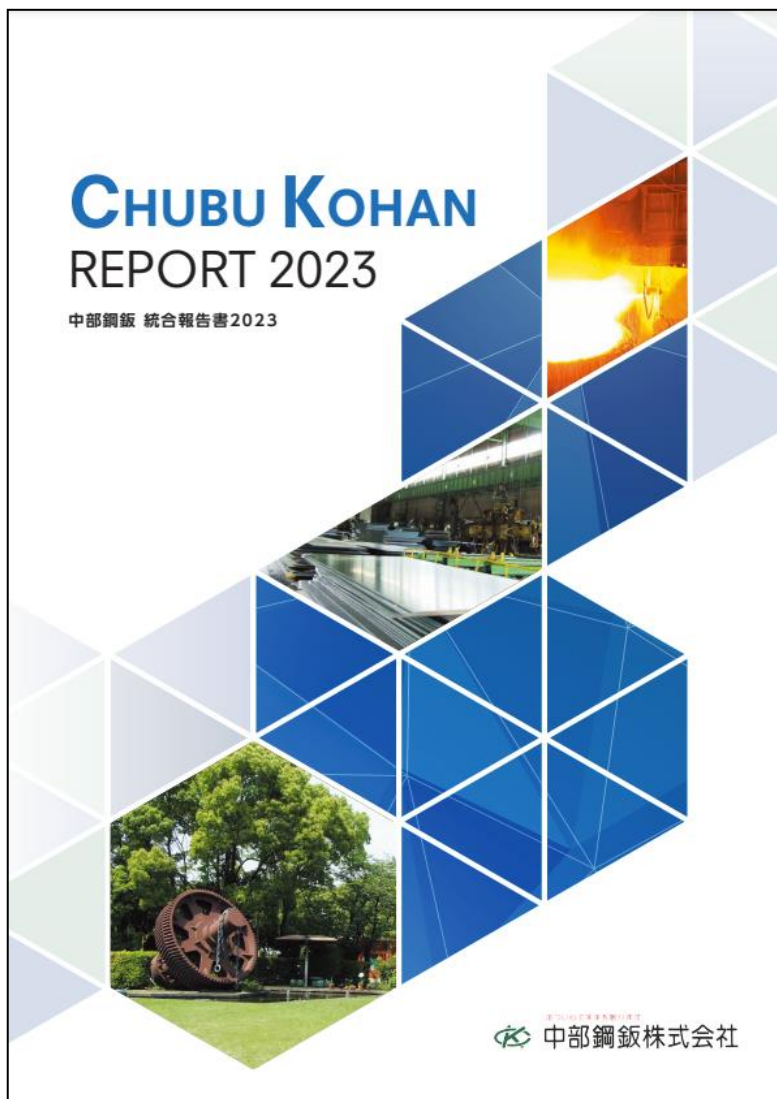
投資効果：半自動運転及び無線操作



写真 完成したクレーン全景



写真 工事中的様子



2023年9月29日 HP掲載

○気候変動への取り組み

- 気候変動への取り組み
- TCFD提言に沿った情報開示
- カーボンニュートラルへの取り組み

○環境負荷低減への取り組み

- 環境方針
- 環境マネジメント
- 環境管理
- 循環型社会への貢献

○人的資本に関連した取り組み

- 社員への取り組み
- 安全衛生
- 健康経営推進への取り組み

○社会への貢献

- 地域社会との共生
- お客様との関わり
- サプライヤーとの関わり

○ガバナンス

- コーポレートガバナンス体制の概要
- 役員一覧及び各機関の構成と取締役のスキル・マトリクス
- コンプライアンスへの取り組み

取り組み

● 当社における取り組みの全体像

項目	内容
①CO ₂ 排出量削減	<ul style="list-style-type: none">・ CO₂排出量削減に向けたロードマップの取り組み・ 省エネ投資案件促進のため、インターナルカーボンプライシング制度を導入・ 社員の意識向上のため、Eラーニング実施（2023年6月）
②脱炭素に関する情報開示	<ul style="list-style-type: none">・ TCFD提言に基づく情報開示<ul style="list-style-type: none">➢ 「ガバナンス」「リスク管理」「戦略」「指標と目標」をHPに掲示（2023年3月）・ GXリーグに基づく情報開示<ul style="list-style-type: none">➢ GXリーグに参画（2023年5月）➢ 2023年度から3年間のシナリオを事務局に提出（2023年9月）・ 統合報告書にScope3の情報掲載<ul style="list-style-type: none">➢ 2023年9月に開示➢ 第三者機関による検証を実施（2023年9月）
③再生可能エネルギーの獲得	<ul style="list-style-type: none">・ 太陽光発電等による再生可能エネルギーの獲得

2030年度において、温室効果ガス46%削減（2013年度比）
2050年カーボンニュートラルを目指す

TCFD提言に基づく情報開示

○2023年3月 「ガバナンス」「リスク管理」「戦略」「指標と目標」をHPに掲示

○2023年9月 統合報告書にて情報開示

GXリーグに基づく情報開示

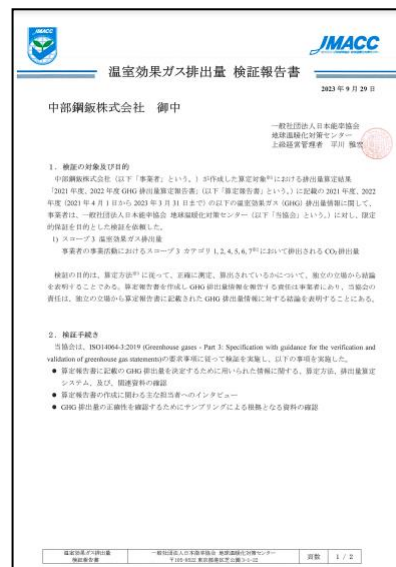
○2023年5月 GXリーグへの参画を表明

○2023年9月 2023年度から3年間のシナリオを事務局に提出

Scope3の開示

○2023年9月 第三者機関による検証

○2023年9月 統合報告書にて情報開示



中部鋼板株式会社 御中

温室効果ガス排出量 検証報告書

2023年9月20日

一般社団法人日本標準協会
環境認証センター
上級経営管理 平川 隆成

1. 検証の対象及び目的

中部鋼板株式会社（以下「事業者」という。）が作成した算定範囲における排出量算定結果（2021年度、2022年度GHG排出量算定報告書；以下「算定報告書」という。）に記載の2021年度、2022年度（2023年4月1日から、2023年3月31日までの）以下の温室効果ガス（GHG）排出量情報に関して、事業者は、一般社団法人日本標準協会 環境認証センター（以下「当協会」という。）に対し、検証の検証を目的とした検証を依頼した。

1) スコープ3 温室効果ガス排出量
事業者の事業活動におけるスコープ3 カテゴリ1,2,4,5,6,7^{*)}において算出されるCO₂排出量

検証の目的は、算定方法^{*)}に従って、正確に測定、算出されているかについて、独立の立場から結論を表明することである。算定報告書を作成し、GHG排出量情報を開示する責任は事業者であり、当協会の責任は、独立の立場から算定報告書に記載されたGHG排出量情報に対する結論を表明することにある。

2. 検証手続

当協会は、ISO14064-3:2019 (Greenhouse gases - Part 3: Specification with guidance for the verification and validation of greenhouse gas statements)の要求事項に基づいて検証を実施し、以下の内容を検証した。

- 算定報告書に記載のGHG排出量を決定するために用いられた情報に関する、算定方法、排出量算定システム、及び、関連資料の確認
- 算定報告書の作成に関与した担当者のインタビュー
- GHG排出量の信頼性を確認するためにサンプリングによる取換となる資料の確認

*) 算定方法の検証
一般社団法人日本標準協会 環境認証センター
1016-013 東京都港区芝浦3-1-10 11頁 1 / 2



3. 検証の結論

算定報告書に記載された2021年度、2022年度の温室効果ガス排出量情報は、算定方法に従って、すべての重要な点において正確に測定、算出されていると認められるような事実は発見されなかった。

検証された温室効果ガス排出量 (tCO ₂ e)		
スコープ3	2021年度	2022年度
スコープ3 全体	185,129	185,094
カテゴリ1	160,572	161,688
カテゴリ2	4,929	6,536
カテゴリ4	15,033	16,087
カテゴリ5	1,528	1,521
カテゴリ6	46	47
カテゴリ7	112	115

注1: 算定対象
本社・製造所、専従営業所、大田営業所

注2: スコープ3のカテゴリ1,2,4,5,6,7
 ◎ カテゴリ1 購入した製品・サービス（購入した原料・資材を含む）
 ◎ カテゴリ2 従業員（個人・法人）の通勤（自動車、鉄道、船舶、航空、ソフトウェア）を対象
 ◎ カテゴリ4 輸送、配送（1次）（原料・資材・製品の）国内・海外の陸上、海上輸送、及び、国内
 郵便物の送付
 ◎ カテゴリ5（事業から出る廃棄物）：算定対象から出る産業廃棄物、本社・製造所の一般廃棄物を含む
 ◎ カテゴリ6 (印刷)：事業者の従業員を対象
 ◎ カテゴリ7 賃貸料の補助、事業所の従業員を対象

注3: スコープ3の算定対象
「サブライチーンを通じて温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン (ver.2.0)」、「サブライチーンを通じて温室効果ガス排出量の算定のための排出単位ガイドライン (ver.3.1)」及び、事業者が作成した「CO₂排出量算定手続」。

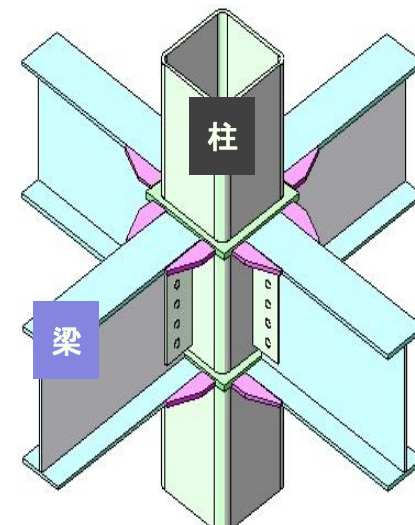
注4:
環境認証センター
1016-013 東京都港区芝浦3-1-10 11頁 2 / 2

オフィスの柱・梁向けに当社鋼材が採用

➤ 施主、施工者（ゼネコン）、設計者それぞれのニーズに応じた製品を供給して対応

【今年度受注案件の一部】

案件	地区	指定者	状況	用途	受注見込量 (ト)
案件A	四国	★ 施工 ★ 設計	完了	柱 梁	500
案件B	神奈川	★ 設計	継続中	柱 梁	1,200
案件C	東京	★ 施主	完了	柱	300
案件D	東京	★ 施主 ★ 施工 ★ 設計	継続中	柱 梁	1,500
案件E	大阪	★ 施工 ★ 設計	継続中	梁	900
合計					4,400



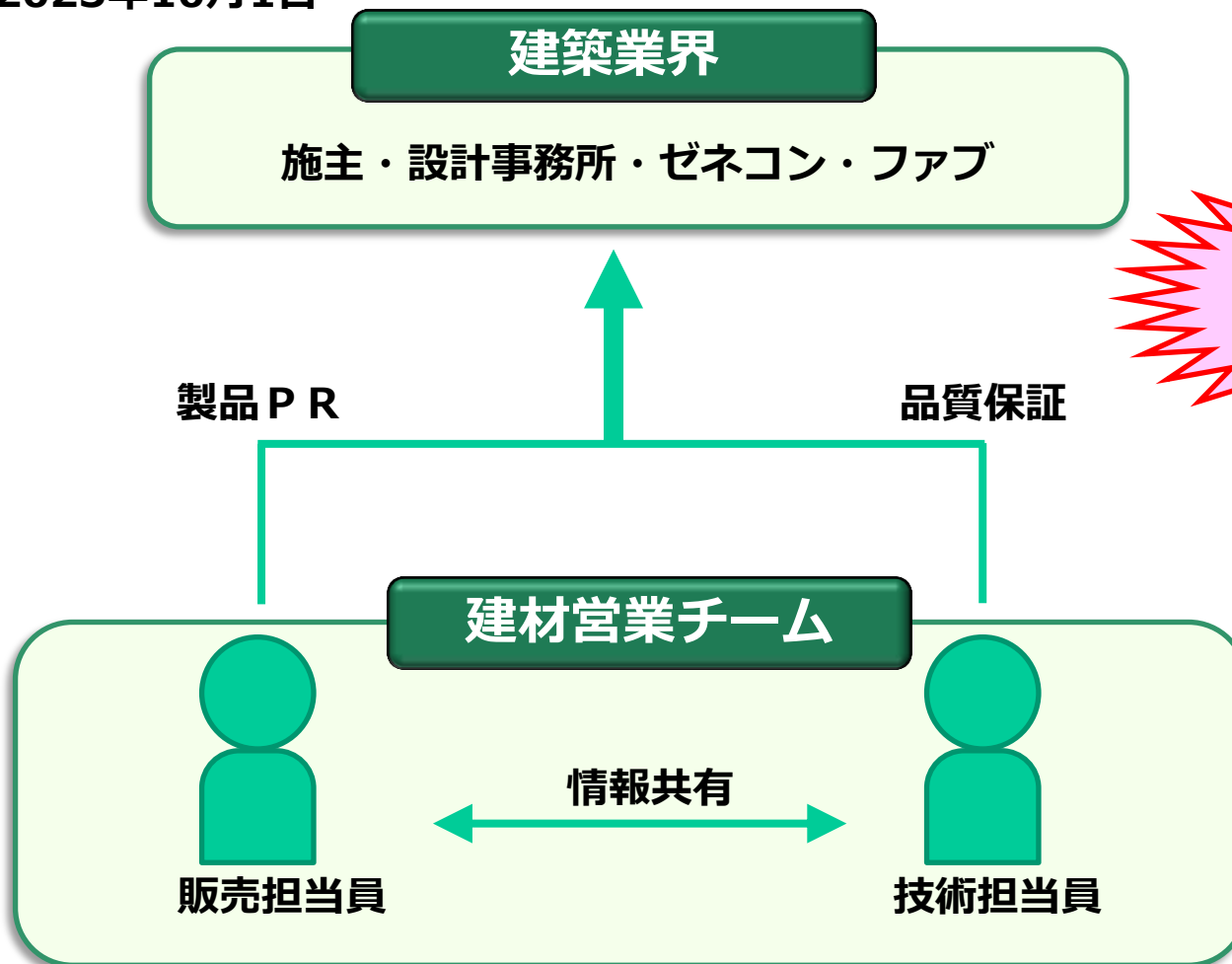
建材営業チームの立上げに関して

■ 「建材営業チーム」を立ち上げ

目的：高炉の構造改革及び脱炭素社会の追い風を受け、

施主・設計事務所・ゼネコン・ファブに対する営業力強化

設立：2023年10月1日

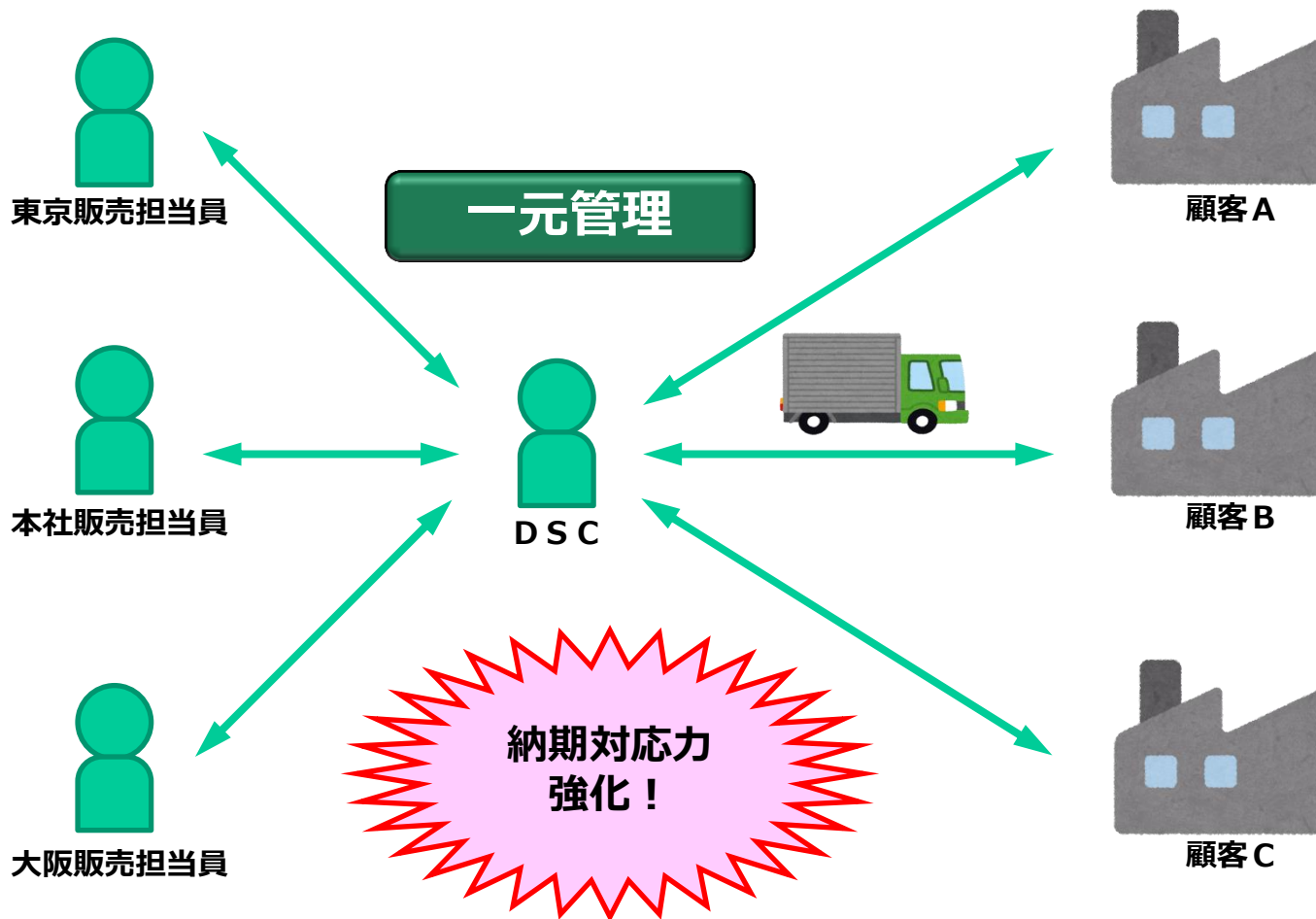


デリバリーサポートセンター立上げに関して

■ 「デリバリーサポートセンター」を立ち上げ

目的：納期管理業務を一元管理することによって、顧客に対する納期対応力の強化

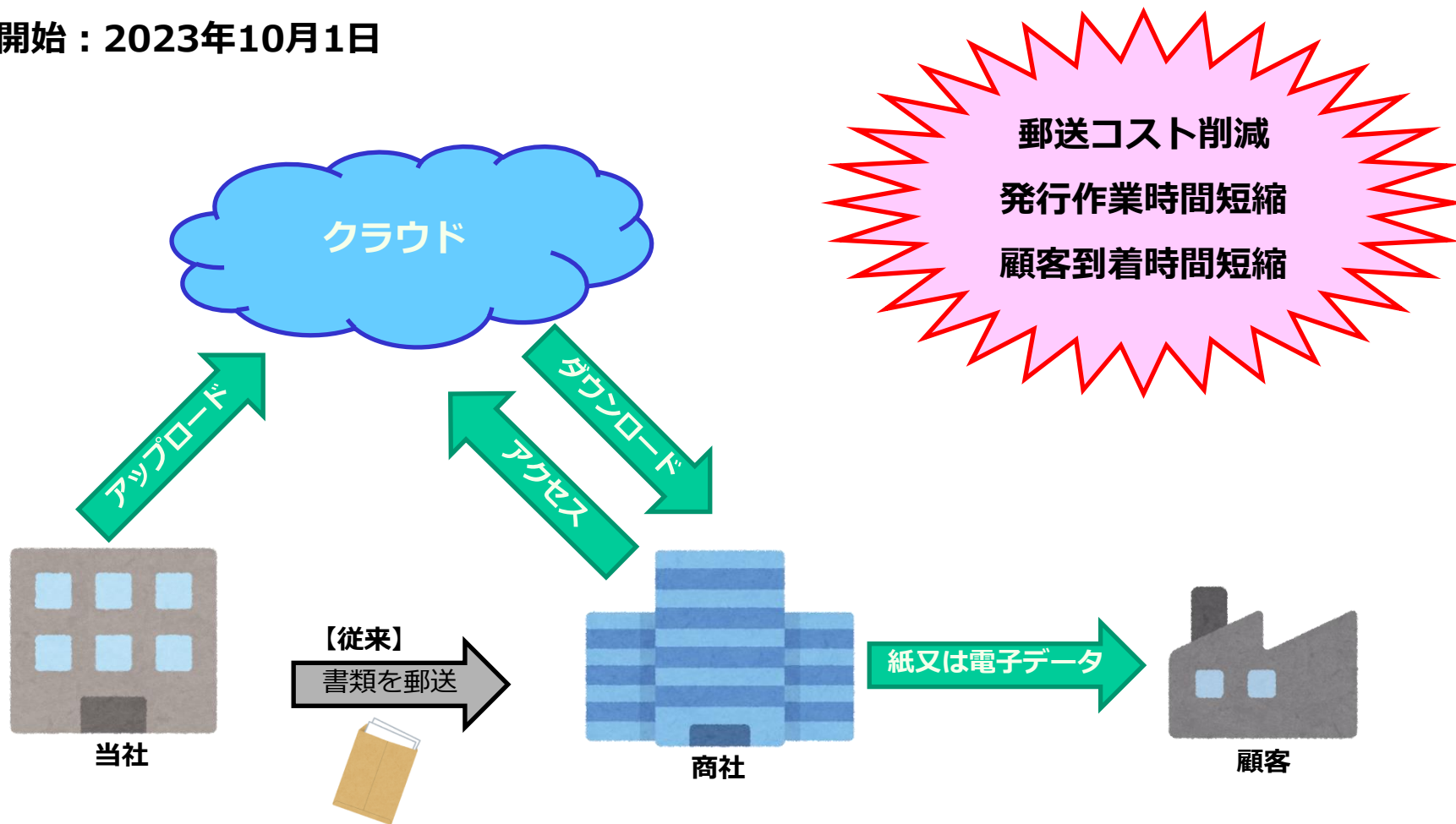
設立：2023年10月1日



ミルシートの電子化

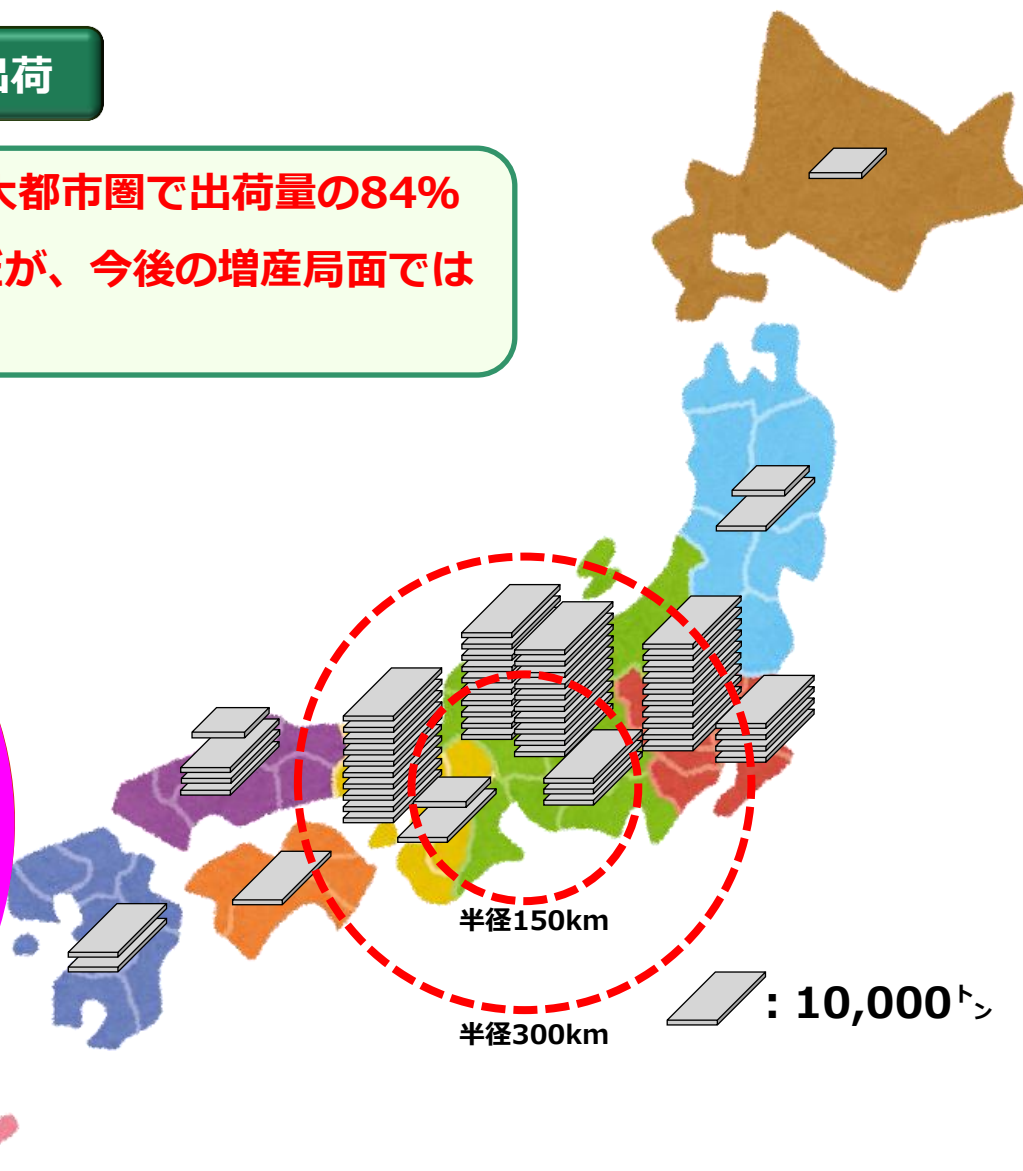
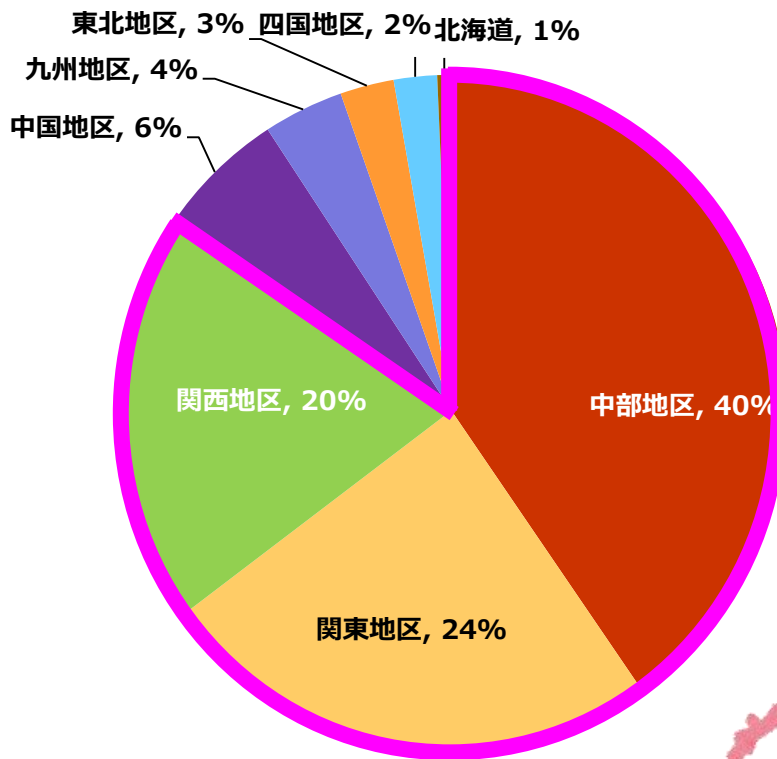
目的：顧客満足度の向上、ミルシート作業の効率化

運用開始：2023年10月1日



2023年3月期 当社厚板 地域別出荷

当社から半径300km圏内の3大都市圏で出荷量の84%
➤現状の出荷量では対応可能だが、今後の増産局面では
中継地の設定等の課題有

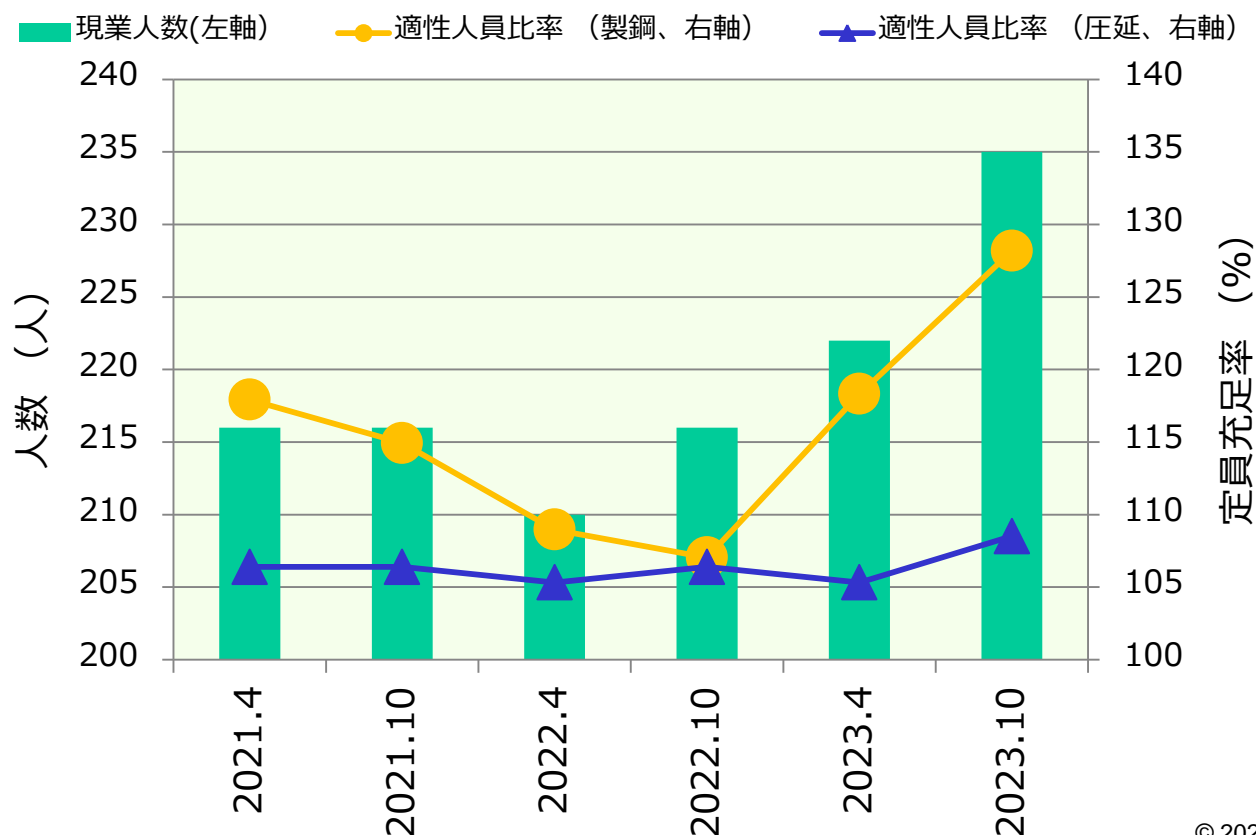


方針

多様な人材が生き活きと活躍できる環境を整備する

- 定員充足率※の向上 (交替職場での人員を必要人数+1名)
 - 余裕を持った人員配置により定着率及び満足度の向上
- 製鋼工場4直化による労務負担軽減と生産能力向上
 - 積極的な採用により人員確保が進捗

$$\text{定員充足率 (\%)} = \frac{\text{実在人数}}{\text{必要人数}}$$

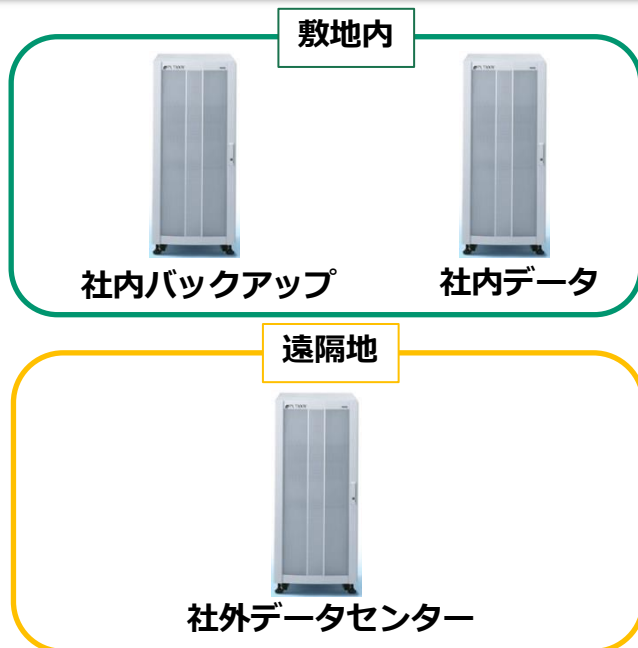


不正侵入対策

サイバーセキュリティ専門業者による常時監視体制を整備し、不正侵入の防止および、万が一のインシデントへの迅速な対応を実施。

データの保全と復旧対策

社内でのデータ保管に加え、外部データセンターを利用した遠隔地へのバックアップ構成により重要なデータの破損消失へ備える。



参考資料

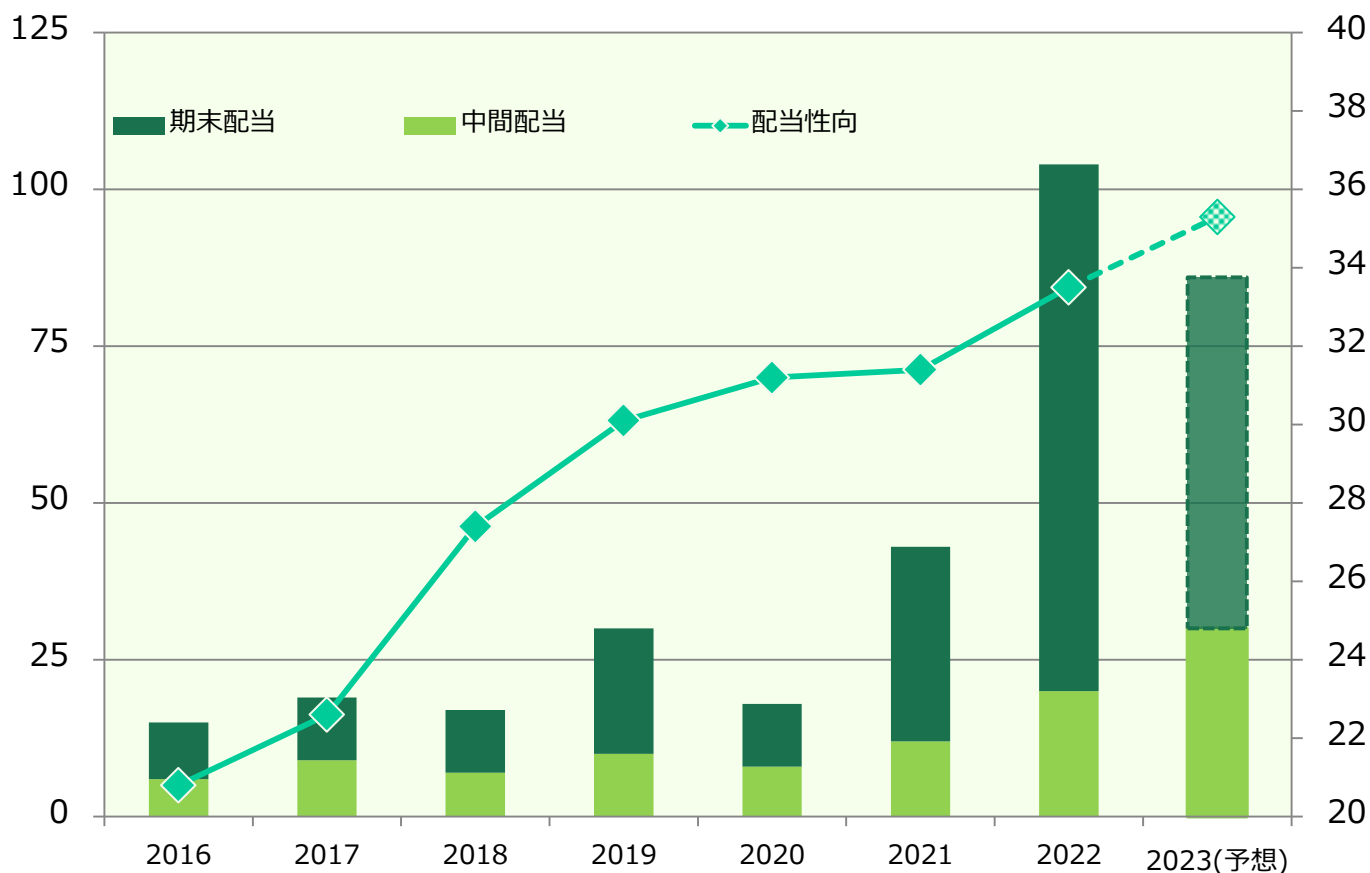
四半期業績推移

単位：百万円	2021年3月期			2022年3月期				2023年3月期				2024年3月期	
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	9,194	10,674	11,474	12,649	13,993	17,718	20,037	21,095	18,201	18,768	18,254	19,036	13,673
売上原価	7,406	8,751	10,081	11,232	12,053	14,137	16,147	17,110	13,863	13,771	13,747	14,234	11,519
売上総利益	1,788	1,923	1,392	1,417	1,940	3,580	3,890	3,985	4,337	4,997	4,507	4,802	2,153
販管費	1,149	1,209	1,210	1,265	1,211	1,396	1,401	1,433	1,311	1,405	1,416	1,403	1,127
営業利益	639	713	182	152	728	2,183	2,489	2,552	3,026	3,592	3,090	3,398	1,026
営業外損益	△34	22	△10	52	△147	57	7	65	△13	34	△19	72	△133
経常利益	605	735	172	204	581	2,241	2,497	2,618	3,012	3,626	3,071	3,470	893
親会社株主に 帰属する 純利益	287	472	158	114	384	1,558	1,727	1,794	2,086	2,493	2,202	2,445	598

配当金・配当性向推移

(単位：円)

(単位：%)



配当金(左軸)	15	19	17	※ ¹ 30	18	43	※ ² 104	(86)
配当性向(右軸)	20.8	22.6	27.4	30.1	31.2	31.4	33.5	(35.5)

※¹ 創業70周年記念配当2円を含む

※² 東証プライム市場上場記念配当10円を含む

■ 当社は2022/12/28に東京証券取引所**プライム市場**へ上場

名古屋証券取引所（プレミア市場）との重複上場

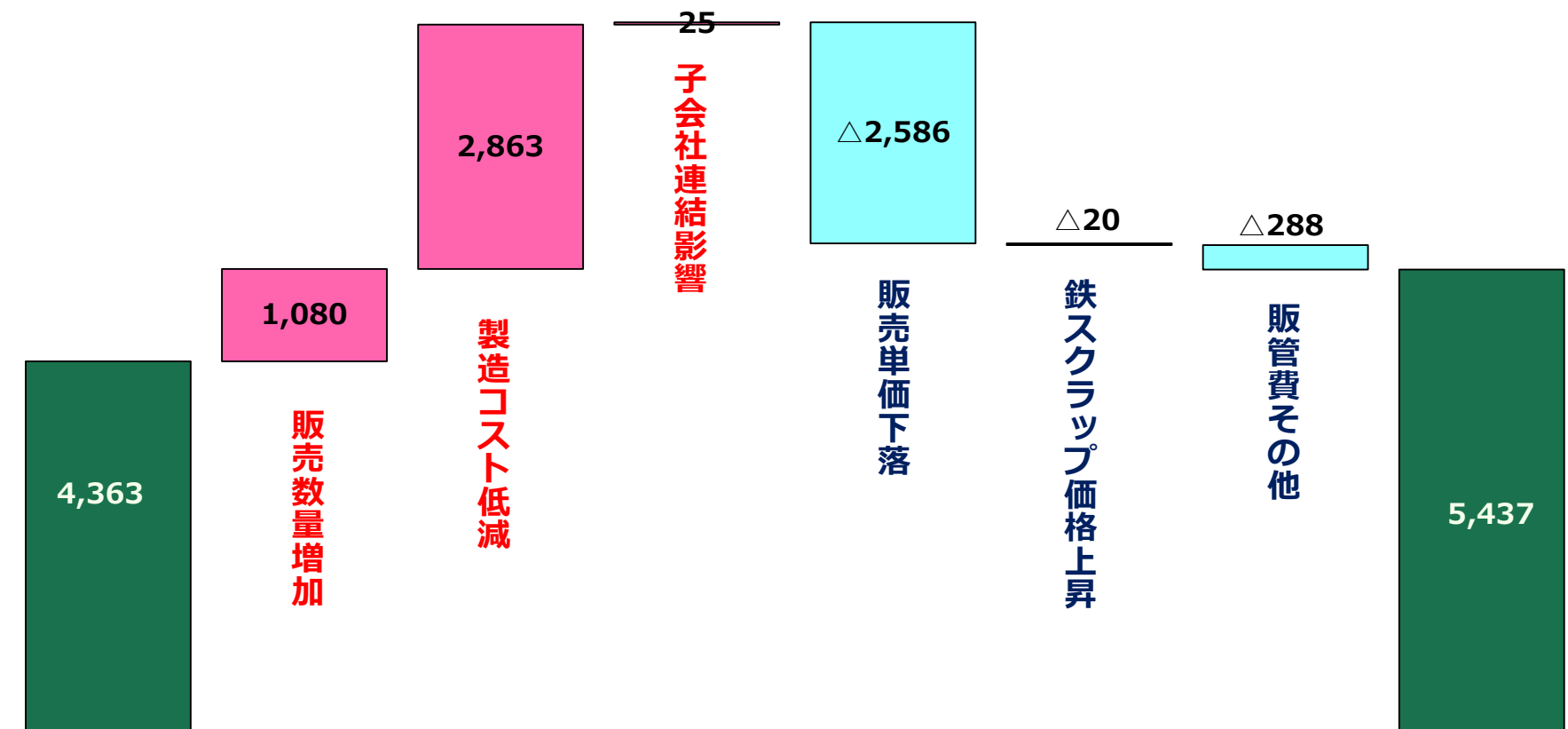
➤ 株価は大幅に上昇、出来高も増加



経常利益見通し上期対下期増減分析（連結）

(単位：百万円)

対前期 +4.1万ト	増産影響 +1,256百万円	前期比 △7.1%	前期比 +0.1%
	I材価格下落 +1,151百万円		



2024年3月期
上期実績
経常利益

対上期比 1,074百万円 増益

2024年3月期
下期見通し
経常利益

ご清聴
ありがとうございました

あつい心で未来を創ります



中部鋼板株式会社

